

## はじめに

この報告書は、2000～2002年の3カ年をかけて実施された第3次総合調査の総括です。総合調査は、茨城県の自然（動物、植物、地学など）の現状を包括的に把握するために、県域を4分割して、一つの区域を各3カ年、一巡するのに12年を要する継続的な事業です。しかも、一巡したら、また振り出しに戻って、再び最初から繰り返すという、博物館が存続する限り常に調査がどこかで行われていることとなります。今回は、県北東部を対象にしていますが、この地域は海岸から一気に阿武隈山地へとつながり、標高差が大きく、そのため変化に富んだ自然が展開しているのが特徴で、数々の貴重な調査結果が得られています。

これらの調査は、調査区域が広いことと調査対象が多様なことが特徴ですが、それだけに博物館のスタッフだけでは到底こなせず、毎年、大学・研究所の現役研究者は勿論、在野の多くの研究者、専門家など100名をこえる方々の協力を頂いています。

アメリカ博物館協会が1991年に発表した活動指針は、活動に当たっての原則を“知的厳密性の伝統をまもること・Excellence”と“知的恩恵をすべての人に公平に享受できるようにすること・Equity”にしています。当館の総合調査は、まさに博物館教育の根幹としての知的厳密性を得る重要なプロセスであり、この報告書や報告書を基にして行われる第3次総合調査報告企画展“マンボウが夢見るブナの森”は、知的恩恵をすべての人が享受できるようにする公平性の追求ということが出来るでしょう。

総合調査の実施に当たって協力を惜しまれなかった多くの研究者、専門家の皆様に心からの敬意と謝意を表し、この成果がより多くの人々に活用されることを期待しています。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
館長 中川志郎